

更に前進を

秋田市長 川口大助

新屋町の皆さんとともに昭和三十七年の希望に満ちた新春をお祝い申し上げます。

昨年は本市にとつて、世紀の大事業とも申すべき秋田国体が開催されましたが、これは全国から高い評価と賛辞を頂き、大成功裡に終了いたしましたことを深く喜ぶとともに、この成功の原因は皆さんの真心のこもつた協力態勢の強さにあつたものと厚く感謝申し上げます。特に民泊を引受けられました御家庭の方々の御厚意に對し心から御礼を申し上げます。

私は両陛下のお供をいたしまして、太平療育園に参りましたが、新屋の方々の

奉送迎態度は、非常に立派なものでございました。私は秋田国体によつて、すべての都市づくりというものの成功は、あつて市民づくりの成否につながるものであることを確信しました。

人の私と協力を背景としな

い市勢の発展は考えられないのであります。私は昨年の暮れに、「秋田市の現状と将来の展望」を発表して、本市の将来発展すべき姿を明確にし、その目標と路線を策定したのであります。この構想は、本市の恵まれた工業立地条件の特性の上に立つて、工業を主体としたあらゆる産業の普遍的振興を図ることにより、

市民の高い経済成長と、豊かな生活が実現される福祉都市の建設を目的としてい

るものであります。

私はこの計画構想を根底として、市行政に努力して参りたいと覚悟を新にして

おるものであります。

勿論この構想の達成は安易なものではなく、相当な困難も予想されますが、皆さんの理解と協力の態勢が十分であるという背景のもとに、本計画が推進され、将来日本全国の都市として愈々発展すべき可能性は充分あるものと確信いたしております。

どうか新屋町の皆さんに、この構想内容をよくご

主張

南部地区の団結を更に

いよいよ昭和三十七年である。おめでとう。然し果たして昭和三十七年はめでたい年でありうるだろうか。所得倍増どころか物価はうなぎのぼりにあがり、我々の台所はますます苦しくなる。経済界の不況はますます深刻化し、中小企業の倒産するものも続々あらわれるおそれもあるという。わが郷土の秋田も昨年は国体という大行事を美事やつてのけたし、全国的に秋田の名をあげた。そして新しい秋田市民づくり、新生活運動なども、少しづつあるが前進をみせている。その反面、国体のシワ寄せは本年に入つてあらゆる面にあらゆることも否めない事実である。南高校間題にしても、やうやら南部に敷地はきまつたが、その間のイキサツは諸氏の既に御承知の如く我々の運動と力の限界をまざまざとみせつけてくれた。我々はこの事実を厳しく直視し今後の南部地区の発展のための反省の資とすることに決してやぶさかではない。然し、それにもまして県当局は高校生急増対策に対して無為無策とはいわないまでも、泥縄式であつたことは事実である。新設の南高校の内容の充実を実行させるのは我々南部地域住民の責務である。又本年は、大森山開墾、新屋地区内道路舗装、消防車の増配、下水道の促進、北部(割山)地区小学校の

題は山積している。どのひとつをとつてみても、簡単にすぐ実現できるものはない。緊縮財政という政府の方針が県や市にも反影し、また我々のフトコロもさびしくなる今年だ。地元負担金をなるだけ少くして、しかもこれら諸問題を解決してゆくには、団結以外はない。我々新屋の住民は、浜田、豊岩、下浜とも力をあわせて南部地区の共通の問題で手を結んでやつてきた。また昨年は牛島地区や旧秋田市南部地域とも相ていけいしてきた。今後は更にこの団結の力を強固にして、一大政治力を結集しなければならぬ。新屋住民の各層各位の一層の奮起をのぞんでやまない。

頌 春



理解下さいまして、ご協力下さることを心から念願するところであります。

なお私は今年、市民憲草の徹底を図る市民運動に強力な支援を致したいと思っております。市民憲草の真実な実行こそは、市民づくりの大きな礎石をなすもの

と思うからであります。新屋町の皆さん昭和三十七年こそは、よい市民となり、よい都市をつくることに協力し、更に前進を続ける意義ある年となるよう心から念願いたしまして、年頭のことばとします。

振興會長 穂積孝悌

謹んで新年を御祝ひ致します。昨年は秋田国体開催に当たり大平教育園に両陛下の御行啓を御迎へ申上げた感謝の上に一七〇余名の選手の宿泊を引受け非常なる親待と協力によりまして立派に其の責任と義務を果し秋田特に新屋の人情の厚さと好さを顕示致しましたことは寔に皆様と共に御同慶至極に存ずるところであります。

見ました事は、成功の結果であつたと信じ慶び居る所であります。

尚、昨年は当地区割山には、秋田空港の開設と、ゴルフ場の建設を見、今年度より雄物新橋と新川橋の永続橋としての架替へ工事も行はれる事になり、上下水道の完備、大森山開発観光施設計画、新屋消防出張所の拡充等、当地区の振興發展を期する重大な年でもなす。

新春雜感

協力と御後援を願ふて新年の御挨拶と致します。

寅年に思ふ

一、今年は寅年酔払ひ防止法にひつかゝらぬが旺心

二、寅の威をかる酔払ひ豚箱に入れられ豚児となるか

三、いにし年何事ものりくらりの丑の如今年は寅年猛く速く進まん哉

（振興会長）

れて來ました秋田第二高校南部地区誘致運動も旧市内南部地区振興会策戦上大同団結誘致運動を強力に推進し、最も好適なる敷地として、選索したる土地に決定ならず仁井田地区二ツ屋潟を埋立し建築と決定された事は、実に遺憾に存じますが、先づ当南部地区としては、秋田北部飯島や土崎高清水寺内地区等に決定ならず当南部地区に建設決定を

昭和卅七年今頭にあたつて

東海林憲次

皆様お喜びなされておめでと
うございます。
新屋町神社前を中心とし
ての秋田市南部地帯交通網
整備と運営の円滑化につい
ては、一応規道に乗り成果
も目立って良好となつて参
りました。
これは市民各位の後援と
市当局の暖かい理解に依る
もので、南部地区の人々の
運動が実つたものと思われ
お互に喜んでよいことと信
じます。
そこで次の問題は側溝整
備の件です。
御承知の通り、新屋は西
後に砂山を負つてる段々地
になつてゐるのに側溝は不完
全で狭いので、一度大雨が
降ると神社前から大川端一
帯が水びたしになる有様で
す。
ことに国道が整備され鋪
装されてからは水のけけ口
を失ひ一層悪い状態になり
ました。
この問題は急に新屋町の
根本的な改善を要する必須
の問題なのであります。
新屋町振興会でもとくに
この件を陳情具申してあり
ますが、私もその線に沿ふ
年来的念願として根本的解
決の問題と取り組み根本的解
決にあたる覚悟であります
調ねば新屋町の立地的体
質改善に關することなので
すが、皆様の理解と鞭撻の
下に勇猛虎の如く頑張る所
存です。よろしく。

に立てる。第二に上水道幹線の敷設。大約二千三百万円の巨費を投じての工事は、地区市民の存外知らない間に？仁井田揚水場と結びついた。早速にも、比内南丁の一部と、内浜田地区に給水を開始し、今年の若水は蛇口をひねつて汲んだワケだ。下水道の着工もよかつた。登記所廃止反対の陳情も成り功した。

問題の県立第二高校の誘いに、まことにお目出度うな、まことです。

本年こそは大森山開発、新屋地区内道路舗装、消防車の増配、下水道の促進、豊岩地区上水道の促進、困難にもせよ、北部（割山）地区小学校の新設、南部中学校の統廃合。

又下浜地区を含む国道七号線つて替工事の促進、出来れば柱根駅誘置など、直に剣に取り組んで、参りなうと思う。

満足とは申せ、この運動の過程で、この度程私どもの力の限界を知らされたことはなかつた。

次に年来の重要問題で足踏みしたものに国道七号線の付け替工事がある。

地方開発の動脈である丈に残念たつたが、それでも明けて八日、早速工事事務所と話し合いを進めることにした。

此の間、市長さんの公明導的、穂積振興会長さん、ちの努力的態度、それに市議の東海林さん、前市議で先輩格の富岡さんの熱心さには今更の如く心打たれる。

いよいよ明けて三十七



不文多謝

昭和37年

賀 正

1962年

新屋振興會

會長 穂積孝悌
他會一同

新屋支所

支長所 石山虎二
市稅事務所南出張所
所長 武藤俊一
他職員一同

東北パルプ秋田工場

取締役
工場長
龍山萬才
電話(二) 五五五一

新屋地区隊

消防員一同

新屋婦人会

会長 工藤 コ
他 会員 一同

日新中学校長	P T A 会長	日新小学校長	P T A 会長
武田博治	高橋松之助	佐藤勲武	穂積惇

電話
農業倉庫
(一)(二)
五五
二二
五五
四八

電 (二) 五二五一

